

【町の学校教育の方針】

- ・学校の教育目標の具現に徹する学校経営をする
- ・一人一人に「生きる力」を育む指導をする
- ・郷土への誇りと愛着をもち、相手を思いやる心を育てる指導をする

【児童の実態】

- ※（ ）内は、R5年度アンケート結果年平均
- ・学校生活が楽しいと答える児童が多い。（3. 54）
 - ・自分にはよいところがあると答える児童が多い。（3. 32）
 - ・授業がよく分かると答える児童（3. 38）及び課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童（3. 39）が多くなってきた。
 - ・アンケート項目「早寝、早起き、朝ごはん、排便リズムの実践」（3. 20）と「毎日の読書習慣」（2. 80）の結果に個人の差があると同時に、全体としても低い。

【保護者や地域の願い】

- ・元気な挨拶ができる子
- ・自分の考えを進んで発言できる子
- ・思いやりの心をもち、命を大切にできる子
- ・地域を大切にする気持ちをもち、地域の行事に積極的に参加できる子

【学校課題】

- 1 自分に自信をもち、互いの人権を尊重し合う心を育む。（自己肯定感）
- 2 仲間との学び合い、基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける。（学力）
- 3 変化に対応しながら、自ら判断して健康で安全な生活をめざす力を身に付ける。（対応力）
- 4 郷土の歴史や文化について学び、自らも継承していこうとする態度を育てる。（社会形成能力）

【学校の教育目標】

ともにかがやく大和の子
よく考える子 思いやりのある子 自らきたえる子

【経営の方針】

対話を通して、自分から考え動き出す子ども 地域が誇る学校づくり
合言葉 わくわくする学校 3つの保障 ①安全・安心の実感 ②自己選択 ③試行錯誤

【指導の重点とその具現】

知よく考える子【自己調整力】

- ・自ら学び、課題解決を楽しむ子

◎自己調整しながら主体的に学ぶ授業

- ・子どもの意識が生まれる課題づくり
- ・効果的なタブレット端末の活用
（個別最適な学びにつなげる自己選択）
（教師・子ども・学校・家庭をつなぐ）
- ・「できた」につながる評価問題の工夫と見届けの充実
- ・伝え合うよさや学びの深まりを自覚する振り返りのある終末

○ふるさと（やまと）を愛する魅力的な体験

- ・生活科と総合的な学習（やまと）を核としたふるさと教育の推進
- ・地域を知り・考え・発信する探究課題の設定
- ・地域貢献（自分にできること）を考える時間

○読書の習慣化

- ・やまと推薦図書十選読破、読み聞かせ
- ・家庭での読書

徳思いやりのある子【共生力】

- ・自分のよさをのばし、仲間と協働する子

◎安心でき、ともにかがやく学級経営

- ・自己のよさや強みに着目し、有用感や所属感を深める手立ての積み重ね
- ・違う考えとも対話を重ねる仲間づくり
- ・いじめへの組織的対応（未然防止、早期発見・早期対応、SOSの出し方指導）
- ・困り感への早期対応（特別支援教育）
- ・美しい教室環境（教室、言葉、行動）
- ・「3つの宝（挨拶・時間・ほかほか言葉）」の実践
- ・目的や目標に向かって話し（高まり）合い、自主的に活動する集団（ボランティア活動）

◎委員会活動の充実

- ・学校をよりよくしたいと願い、自ら動く

◎縦割り班活動（やまとグループ）の向上

- ・年間通じた運動遊び・話し合い活動（人権集会）・読み聞かせ等

体自らきたえる子【自己指導能力】

- ・命を大切にし、自分で自分の行動を律する子

○自他の生命を大切にする危機意識の高揚

- ・安心・安全に対する意識の高揚
交通ルール、学校生活のきまりの遵守
- ・危険予知能力や安全意識の育成
子ども目線の安全点検
- ・災害への対応（防災教育）
計画的で実践的な「命を守る訓練」
研修や実践によるマニュアルの改善

◎健康・体力向上を目指した生活習慣の定着

- ・計画的な朝活動（運動）の継続
- ・体力向上を目指した学級遊びや縦割り活動
- ・体育の授業における運動量の確保
- ・食育の推進・食物アレルギー対応
生産者を招いた給食会
クッキングマイスターの取組
- ・保健指導の充実
健康貯金の取組（健康管理能力）

【目指す職員集団】

◎笑顔で生き生き職員集団、組織で動く職員集団

- ・子どもを見て（観て）、問いかけ、子どもの考えを引き出す温かさがある。【子どもを支える伴走者】
- ・子どもの可能性を想像して創造する柔軟さと、互いに支え合い、認め合い、切磋琢磨し合える厳しさがある。【研究と修養への主体性】
- ・子どもと教職員の命を守る判断力と行動力がある。【知識より意識】

○自らのキャリアアップ、ウェルビーイングな職場環境

- ・特別な支援を要する児童への指導力向上
- ・学力向上を目指した授業改善
- ・対話のある校内研修
- ・ボトムアップ方式による業務負担軽減とやりがいのある職場環境づくり

【ウェルビーイングが循環する学校づくり】

◎家庭・地域・幼中との連携

- ・関係機関を含めた保護者との適時適切なコミュニケーション
- ・評価項目「早寝、早起き、朝ごはん、排便リズム」「毎日の読書習慣」の向上を目指したPTA活動の充実
- ・学校の情報発信、学校評価の公表と活用
- ・学校関係者評価を生かした教育活動の見直しと改善
- ・幼小中のスムーズな接続

○地域の教育資源・教育力の積極的な活用

- ・生活科及び総合的な学習の推進
- ・ゲストティーチャーによる食育や人とのかかわり